



成人の日を迎えて

一月八日(月)は成人の日です。今年、一月七日(日)に平成十五年四月二日(平成十六年四月一日)生まれの方を対象として、「第2回前橋市はたちのつどい」を開催しました。今回は東地区の20歳を迎えた方から抱負や感想をいただきました。



成人を迎える抱負・感想

光が丘町 柴田 航成

私の「成人式」に対する抱負は、今までに経験したことのないものにチャレンジ精神を持ち、身に付けた知識や技術で自分にも周りにも何かプラスワンにできるような姿勢でいることです。

今までは、自分の意志でやりたいことも保護者の承諾を得てから行動に移す形でした。成人となり自分の意志で判断し、さらに決断していかなくてはならなりません。そして、その結果は、すべて自己責任として扱われるようになることでしょう。

しかし、そこで臆するのではなく、チャレンジ精神をもち主体的になつて、やりたいことや自分にとって必要な事を考え行動していきたいと思えます。そうすることにより、自分にとって豊富な体験や経験が養われ、自信をもって行動していけると思えます。

また、ただ前進するだけでなく立ち止まって周りを見渡すことや時間をかけてコミュニケーションをはかっていることなど、常に謙虚な気持ちで忘れずにいたいと思います。これからは、親や仲間の力を借りながら生きていくことになるので、ただ責任を負うことばかりに気を取られるのではなく周りに頼る事も必要不可欠であると考えます。

成人になるにあたり、チャレンジ精神、謙虚な気持ち、助け合う心、そして何事にも感謝するということが、これらを常に心に留めて生活していきたいと思えます。



成人の抱負

前箱田町 安中 来瞳

まず、二十歳を迎えるにあたり、成人として恥じない振る舞いをする。加えて、大学生として本格的に学業に打ち込むこと、社会人になるための準備をすることを具体的な抱負とする。

現在私は、大学生として英文学科に在籍し、英語教員になることを視野に入れ、教職課程を履修している。大学の課題は大変だが、自分の成長を実感させられる。学年が上がるにつれ、課題の内容が難しくなるが、実力で太刀打ちできるようにしたい。

これまでの学生生活を振り返り、本腰を入れて勉強する必要性を感じている。今与えられている時間は、学業を補う時間や将来を見据えた勉強に充てていきたい。今年度は学業と並行して、これまでできなかった社会貢献活動にも力を入れ、視野を広げていきたいと思う。

高校の先生に、教育実習で成長した姿を見せるのが目標である。十分な学力をつけることはもちろん、学生時代に、様々な経験を積み、人間性を高めていきたい。



素敵な成人を目指して

大利根町 和田 咲花子

成人式を迎え、いよいよ20歳になります。まずは、20年間育ててくれた母に感謝の気持ちでいっぱいです。

20才になるまでにたくさん経験をしました。この経験をこれから成人として社会に出るにあたって活かすことが出来るように、20代になり成人としての自覚をさらに持ち、頑張っていきたいと思えます。正直まだ20歳になるという実感がありません。

2022年に成人年齢が18歳に引き下げられ、大学入学とともに成人として扱われるようになりました。しかし、その時に「もう成人」という実感を得ることが出来ませんでした。だからといって時間は待ってくれません。年齢だけでなく心も成人になれるように、一歩成長していきたいです。

特にこの一年は、新しいことに挑戦していきたいと思っています。20歳の一年を有意義な一年にし、素敵な成人になれるように頑張りたいです。



節分の豆知識

鬼のパンツはいいパンツ♪強いぞ♪

昔、こんな歌を歌いませんでしたか？鬼がトラのパンツを履く訳は、「鬼門」に由来する。「鬼門」は、鬼の出入りする方角で「北東」。この方角は、十二支にあてはめると「丑」「寅」の方角にあたる。そのため、古来鬼は「牛(丑)」「の角(つ)」を持った姿で、「虎(寅)」のパンツを身に付けているとされている。



節分は2月3日それとも2月2日？

2月3日は「節分」。節分とは本来、「季節を分ける」。つまり季節が変わる節日を指し、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、1年4回あった。ところが、日本では立春は1年の始まりとして、特に尊ばれたため次第に節分といえは春の節分のみ示すようになった。この節分、2月3日というイメージが強いが、2月2日や4日になる年も稀にあり、日には固定ではない。2021年は、1989年以来124年ぶりに、2月2日が節分だった。ちなみに、2025年の節分は2月2日。

豆まきⅡ「魔の目(魔目Ⅱまめ)」に豆を投げつけて「魔を滅する(魔滅Ⅱまめ)」節分には豆をまく。昔、京都の鞍馬に鬼が出たとき、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っており、魔の目(魔目Ⅱまめ)に豆を投げつけて「魔を滅する(魔滅Ⅱまめ)」に通じる。そこから、転じて、無病息災を祈る意味となった。豆まきは一般的に、一家の主人あるいは「年男」が豆をまくものとされているが、家庭によっては家族全員でいうところも多い。家族は、自分の数え年の数だけ豆を食べると病気になるはず健康でいられると言われている。ただ、豆まきを使う豆は炊いた豆でなくてはならない。なぜなら、生の豆を使うと拾い忘れた豆から芽が出てしまうと縁起が悪いからだ。「炒る」は「射る」にも通じ、また、鬼や大豆は陰陽五行説(「木」「火」「土」「金」「水」の五行)の「金」にあたり、この「金」の作用を滅する「火」で大豆を炒ることで鬼を封じ込めるという意味がある。そして最後は、豆を人間が食べてしまうことで、鬼を退治するのである。

掛け声「福は内」「鬼は内」

鬼石では、「福は内」「鬼は内」と言いながら豆をまく。鬼が投げた石で街が出来たという言い伝えから、良い鬼もいるのでそれを呼び込むという優しい考えだ。鬼石神社などでもこの掛け声を使う。秩父の三峯神社では、「ごもつともさま」という合いの手を使い、豆をまく。伊勢志摩地域、紀伊半島では、「福は内」「神は内」。地域を治める領主が九鬼(くき)という名だったことから「鬼」は使わないというのが理由。昔から付度はあったということか？

節分の食事

「恵方巻き」今や節分定番ともいえる恵方巻だが、その発祥は大阪。節分に恵方を向き、願い事をしながら太巻きを黙々と最後まで食べるといふもの。太巻きの具は、七福神にあやかり、また福を巻き込むという意味も込め、七つの具を入れるのがよいとされている。太巻きは、鬼が忘れていった金棒という見たてもあるように、食べるⅡ鬼退治という意味合いもあるようだ。ちなみに2024年の恵方は、「東北東」。

「利根西の食事」

夕食 白米飯、入り大豆(青梨子)

ちなみに、高度経済成長以前の利根西農村の日常食(例)

朝食 ヒキワリ飯・味噌汁・オナメ

昼食 ヒキワリ飯・味噌汁・煮物・タクワン

夕食 煮込みうどん・煮物・タクワン

「福豆茶」朝、お茶の葉と節分の豆でお茶を淹れ飲む。

「豆を食べる」年の数だけ豆を食べる。

館報編集委員 中川 春雄

